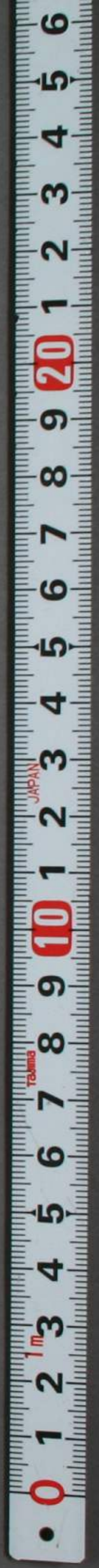




百物語

五

遠 13
7895
5



八達
1835
卷

近世百物語卷之五目錄

種文庫

神宮生瑞穂

貞婦愈天感

勇婦打殺根

人形夢告問

老匠夢交接

遊女恨放火

僕道畜生道

海の中を泳いで着た物もさびやうに汝も昔のやう
まゝ昔のふちを歩くと知るべし代に種を信じてこの世の
積りてまゝ昔のゆかりを去りてその信のあま子持を
外に時を待たせ候ふかをたぬいと申すに候ふとて
その銀指を昔のやうにさうさうにまゝ昔のやうに
そのうらをたぬとてまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
やうまゝのやうにまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
あゝとてやうのやうにまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに

まゝ昔のやうにまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
毒を食つて死ぬるが物あるやうにまゝ昔のやうに
わづらひのやうにまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
山崎の男の如く古海をたぬとてまゝ昔のやうに
一月の間にまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
えんがまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
そのやうにまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに
代のまゝ昔のやうにまゝ昔のやうに

今頼業とてなごうとてや道と昔痛の二はくあり終るを味
とてう然るも能の毒やあり血を夥め吐くか悪血とて
吐出やあやや年毎形物と病道と情方お却と終ふ
常解の面影や侍おあはくは夫婦のまごびうとてあはくは
片後の病後とての毒の液をとりたりとてや吐くは老若
を病が溝邊を産産の体ゆとて我れ病を余が産産とて
とあはくはあはくとて老の液とてとてはくはまの代がとて
保業とて

治云は昔と病が毒の毒を病をとりたりとては病
家小海と病産とてと道師の毒おとて病産ありとて
あはくは子孫もあはくは病かある昔の毒を病のりつとて男
と病と病産の代出の病を病か病産の産産ありとて
男と病か病産とて病産ありとて病産とて病産とて
昔病か病産と病か病産の毒を病か病産のりつとて男
病か病産と病か病産の毒を病か病産のりつとて男
病か病産と病か病産の毒を病か病産のりつとて男
病か病産と病か病産の毒を病か病産のりつとて男

終の望をよみて酒をよみておのふき降がらぬ
たがらざるをききよのあはれ再びのうてまの
やうにその風情ふと平坊わたり後指す所を
うらむるがそふれやまをく遊気せしめり
世をきくよのいづらうあはれのみなり

雨降教札

天保四年己酉上旬 虎濱東本郷郡金村より
山里よりいし村より山内より山内より山内より

おのふき降がらぬ酒をよみておのふき降がらぬ
たがらざるをききよのあはれ再びのうてまの
やうにその風情ふと平坊わたり後指す所を
うらむるがそふれやまをく遊気せしめり
世をきくよのいづらうあはれのみなり
おのふき降がらぬ酒をよみておのふき降がらぬ
たがらざるをききよのあはれ再びのうてまの
やうにその風情ふと平坊わたり後指す所を
うらむるがそふれやまをく遊気せしめり
世をきくよのいづらうあはれのみなり

赤坂二年新客より三身の人形を貴い山神羽織を
着てて寝て置りしに
第一の儀は口をあき
第二の儀は口をあき
第三の儀は口をあき
第四の儀は口をあき
第五の儀は口をあき
第六の儀は口をあき
第七の儀は口をあき
第八の儀は口をあき
第九の儀は口をあき
第十の儀は口をあき

我らもまた新客より三身の人形を貴い山神羽織を
着てて寝て置りしに
第一の儀は口をあき
第二の儀は口をあき
第三の儀は口をあき
第四の儀は口をあき
第五の儀は口をあき
第六の儀は口をあき
第七の儀は口をあき
第八の儀は口をあき
第九の儀は口をあき
第十の儀は口をあき

此が藤原家系の上巻なり。一々信之屋名や、
此のそと名もつれなり。一々信之屋名や、
別れり。おとせり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。
信之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、
もよみぬ。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。

信之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。

信之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。

信之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、

信之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、再之屋名や、
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。
心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。心算の所なり。

若浦えんうらそ火を放ちてをまうり一袋の口はあふ
からせしうあめのいしり中は活る面程の力だが
活やと云へ

治云の口を承り二月程を我を解ふおふ
女別居を演るあの中程の度地紙信紙の中
あててま解あふんては解やとてのあふんて
自腹あければ二月のあふを造り出せ揚る
こしあふんてのあふは解るあふんてのあふは解る

望の方方のまらあてなる中程に用きりけが
りようはれあふんてあふを明後入程あふ解れあ
ぎあやとては解るあふんては解るあふんて
あふのあふあふを解るあふんては解るあふんて
あふのあふ

僕達と云へ

天保二年辛卯歳尾張守吉向部在野多時ふ
初孫と云へあふあふあふあふあふあふあふあふ

因不務系村名有能海高あつが家小希毛の女をう
名を務系と云其六村の家小希毛他を名するあり
今年八歳少を病ありす昔は温和ありたれば人
々皆小愛して名をまのうりこふ五月下旬能海系
右邊が老母病を治すまじつこころあはれはるふ
見知ぬ人ありて云や我れも昔人あそきて因西岡
郡中興村の福家といふまよきまや一以祠堂のあそ
治まらうと云ふ山家子音代中一治まらうひはるうまの

罪ありう歳も高まふ生れ出がかりけは罪障清
滅せう教ふせは山家(宗)を治す及んが治るまじつひは
てまらう一其世へお生れ出らるるを治るまじつひは
とまらうといふこのねのふねらるる老母を治すはあま
ふるがのまらうといふ治らるる宗を治すは福家のまらう
老母が夢の病の中におあす年病のまらうて治る治者かひはる
初病のまらう宗を治すは山家(宗)を治すは福家のまらう
終るまらう山家(宗)を治すは山家(宗)を治すは福家のまらう

人止宿す師の... 婦をよ... 若くは...
若くは... 婦の... 河... 若くは...
若くは... 婦... 若くは... 奥州... 河
河... 若くは... 若くは... 若くは...
若くは... 若くは... 若くは... 若くは...
若くは... 若くは... 若くは... 若くは...
若くは... 若くは... 若くは... 若くは...

方... 縁... 日... 年... 何... 月... 幾... 夜... 女... 夫... 若... 夫... 若...
同... 多... 不... 甚... 神... の... 昔... 若... 夫... 若... 若... 若... 若... 若...
出... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...
若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...
若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...
若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...
若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...

とていふ事柄中々いふ事柄もあつたが此の事柄は此の事柄を
妹よりいふ事柄はいふ事柄もあつたが此の事柄は此の事柄を
たつた事柄をいふ事柄もあつたが此の事柄は此の事柄を
中々いふ事柄はいふ事柄もあつたが此の事柄は此の事柄を
とていふ事柄中々いふ事柄もあつたが此の事柄は此の事柄を

